

近畿厚生局長 殿

地方独立行政法人大阪府立
理事長 高杉 豊

印

大阪府立成人病センターの業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成21年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	37人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

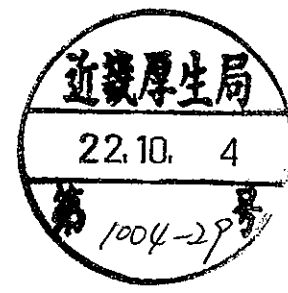
職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	105人	76人	158.0人	看護補助者	30人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	3人	2.3人	理学療法士	3人	臨床検査技師	62人
薬剤師	22人	9人	28.1人	作業療法士	人	臨床衛生検査技師	4人
保健師	3人	人	3.0人	視能訓練士	人	その他	人
助産師	人	人	人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧	人
看護師	446人	15人	457.0人	臨床工学技士	4人	医療社会事業従事者	2人
准看護師	5人	5人	9.1人	栄養士	人	その他の技術員	2人
歯科衛生士	人	人	人	歯科技工士	人	事務職員	116人
管理栄養士	2人	2人	3.5人	診療放射線技師	38人	その他の職員	100人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	412.2人	人	412.2人
1日当たり平均外来患者数	1,072.9人	人	1,072.9人
1日当たり平均調剤数	入院 539.4剤	外来 88.50剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	1人	・膿疱性乾癬	
・多発性硬化症	8人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・重症筋無力症	18人	・原発性胆汁性肝硬変	16人
・全身性エリテマトーデス		・重症急性膵炎	
・スモン		・特発性大腿骨頭壊死症	
・再生不良性貧血	19人	・混合性結合組織病	1人
・サルコイドーシス	4人	・原発性免疫不全症候群	
・筋萎縮性側索硬化症		・特発性間質性肺炎	
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	3人	・網膜色素変性症	4人
・特発性血小板減少性紫斑病	35人	・プリオン病	
・結節性動脈周囲炎	1人	・肺動脈性肺高血圧症	
・潰瘍性大腸炎	16人	・神経線維腫症	2人
・大動脈炎症候群	5人	・亜急性硬化性全脳炎	
・ビュルガー病	1人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡		・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	
・脊髄小脳変性症	16人	・ライソゾーム病	
・クローン病		・副腎白質ジストロフィー	
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎		・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
・悪性関節リウマチ		・脊髄性筋委縮症	
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	21人	・球脊髄性筋委縮症	
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	
・後縦靭帯骨化症	10人	・肥大型心筋症	28人
・ハンチントン病		・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	4人	・ミトコンドリア病	
・ウェゲナー肉芽腫症		・リンパ脈管筋腫症(LAM)	
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	38人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)		・黄色靭帯骨化症	
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)		・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	3人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍に係るものに限る)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
○	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

○「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	10回
部 検 の 状 況	部検症例数 19例 / 部検率 15.40%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
地域がん登録資料のがん対策およびがん研究への活用に関する研究	井岡 亜希子	企画調査課	23,000	補委 厚生労働省
がん情報ネットワークを利用した総合的がん対策支援とその評価の具体的方法に関する研究	津熊 秀明	がん予防情報センター	1,500	補委 厚生労働省
口腔・咽頭がんに対する標準的な診断・治療法に関する研究	吉野 邦俊	耳鼻咽喉科	1,200	補委 厚生労働省
がん専門医療施設を活用したがん診療の標準化に関する共同研究	吉野 邦俊	耳鼻咽喉科	800	補委 厚生労働省
日本人女性における乳がん罹患リスクに基づいた効果的な乳がん検診システムの確立に関する研究	菰池 佳史	乳腺・内分泌外科	12,300	補委 厚生労働省
希少悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同試験	荒木 信人	整形外科	1,100	補委 厚生労働省
肺野限局性すりガラス様陰影の自然史解明のための前向き研究	児玉 憲	副院長	1,200	補委 厚生労働省
がん専門医療施設を活用したがん診療の標準化に関する共同研究	西山 謹司	診療局長兼放射線治療科	800	補委 厚生労働省
がん専門医療施設を活用したがん診療の標準化に関する共同研究	大植 雅之	消化器外科	800	補委 厚生労働省
地域がん専門診療施設のソフト面の整備拡充に関する研究	淡田 修久	副院長	1,000	補委 厚生労働省
再発リスクに応じた適正な乳がん局所療法確立に関する研究	稲治 英生	乳腺・内分泌外科	1,100	補委 厚生労働省
呼吸器悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	今村 文生	呼吸器内科	900	補委 厚生労働省
成人難治性造血器腫瘍に対する非血縁者間の同種造血幹細胞移植法の確立に関する研究	石川 淳	血液化学療法科	1,000	補委 厚生労働省
肺がんの要因と病態に関する研究	東山 聖彦	呼吸器外科	1,000	補委 厚生労働省
標準的乳がんセンチネルリンパ節生検法の確立のための多施設共同研究	元村 和由	乳腺・内分泌外科	1,000	補委 厚生労働省
進行肝胆膵がんに対する標準的治療法の確立に関する研究	井岡 達也	検診部消化器検診科	1,500	補委 厚生労働省
難治がん対策推進のための総合的研究	井上 徳光	研究所分子遺伝学部門	1,200	補委 厚生労働省
がん外科治療における形成再建外科標準術式の確立に関する研究	栗田 智之	耳鼻咽喉科	500	補委 厚生労働省

小計
18

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
生体組織や細胞を用いたがんの治療感受性予知法および治療効果判定法の確立に関する研究	長田 盛典	病理・細胞診断科	500	補委 厚生労働省
我が国における対策型がん検診・任意型がん検診の比較と現状把握に基づいたがん検診に関する研究	田中 幸子	検診部消化器検診科	1,000	補委 厚生労働省
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準的治療確立のための研究	荒木 信人	整形外科	950	補委 厚生労働省
咽喉頭がんのリンパ節転移に対する標準的治療法の確立に関する研究	藤井 隆	耳鼻咽喉科	800	補委 厚生労働省
WEB版がんよろず相談システムの構築と活用に関する研究	柏木 雄次郎	心療・緩和科	200	補委 厚生労働省
治癒切除不能進行胃癌に対する減量手術の意義に関する研究	宮代 勲	消化器外科	1,300	補委 厚生労働省
早期消化管がんに対する内視鏡的治療の安全性と有効性の評価に関する研究-粘膜下層浸潤臨床病期I (TINOMO) 食道がんに対するEMR/化学放射線療法併用療法の有効性に関する第II相試験: JCOG0508	飯石 浩康	診療局長	500	補委 厚生労働省
早期胃がん内視鏡切除症例のWebを用いたがん登録システムによる前向きがん登録に関する研究	飯石 浩康	診療局長	800	補委 厚生労働省
早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究	宇佐美 道之	泌尿器科	200	補委 厚生労働省
限局型小細胞肺癌に対する新たな標準的治療の確立に関する研究	今村 文生	呼吸器内科	700	補委 厚生労働省
再発小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	今村 文生	呼吸器内科	1,000	補委 厚生労働省
大腸がん肝転移症例の術後補助化学療法に関する研究	大植 雅之	消化器外科	200	補委 厚生労働省
再発高危険群の大腸がんに対する術後補助療法の確立に関する研究	大植 雅之	消化器外科	800	補委 厚生労働省
臨床病期II・IIIの下部直腸がんに対する側方リンパ節郭清術の意義に関するランダム化比較試験	大植 雅之	消化器外科	1,200	補委 厚生労働省
切除不能胆道がんに対する治療法の確立に関する研究	井岡 達也	検診部消化器検診科	0	補委 厚生労働省
高精度治療技術による低リスク高線量放射線治療に関する臨床研究	西山 謹司	診療局長兼放射線治療科	300	補委 厚生労働省
放射線治療期間の短縮による治療法の有効性と安全性に関する研究	西山 謹司	診療局長兼放射線治療科	800	補委 厚生労働省
初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同研究	山田 晃正	消化器外科	200	補委 厚生労働省
センチネルリンパ節理論による頭頸部癌微小転移の解明と個別的治療法の開発	上村 裕和	耳鼻咽喉科	1,100	補委 厚生労働省

小計
19

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
効果的な禁煙支援法の開発と普及のための制度化に関する研究	大島 明	がん相談支援センター	1,500	補委 厚生労働省
革新的な診断技術を用いたこれからの肺がん検診手法の確立に関する研究	中山 富雄	疫学予防課	13,121	補委 厚生労働省
標準的検診法と精度管理に係る新たなシステムなどの開発に関する研究	中山 富雄	疫学予防課	1,000	補委 厚生労働省
がん罹患・死亡動向の実態把握に関する研究	井岡 亜希子	企画調査課	1,100	補委 厚生労働省
がん検診に有用な新しい腫瘍マーカーの開発	井岡 達也	検診部消化器検診科	2,500	補委 厚生労働省
院内がん登録の標準化と普及に関する研究	津熊 秀明	がん予防情報センター	700	補委 厚生労働省
日中両国を含む東アジア諸国におけるがん対策の質向上と標準化を目指した調査研究	田中 政宏	企画調査課	1,400	補委 厚生労働省
日中間におけるがんの予防・検診・診断・治療の向上のための調査研究	田中 政宏	企画調査課	2,200	補委 厚生労働省
疾患関連創薬バイオマーカー探索研究	加藤 菊也	研究所免疫学部門	5,000	補委 厚生労働省
肺癌移植マウスを用いた遺伝子発現プロファイル解析による分子標的薬の皮膚毒性に関する解析	谷口 一也	研究所免疫学部門	5,000	補委 厚生労働省
肺癌移植マウスを用いた遺伝子発現プロファイル解析による分子標的薬の皮膚毒性に関する解析	岡見 次郎	呼吸器外科	1,000	補委 厚生労働省
肝発癌抑制を視野に入れた肝硬変の栄養療法のガイドライン作成を目指した総合的研究	片山 和宏	肝胆臓内科	500	補委 厚生労働省
臨床的腋窩リンパ節転移陰性の原発性乳癌に対するセンチネルリンパ節生検の安全性に関する多施設共同臨床試験	元村 和由	乳腺・内分泌外科	0	補委 厚生労働省
食道がん化学放射線療法後局所再発例に対するタラボルフィリンナトリウム（レザフィリン）及び半導体レーザー（PDレーザー）を用いた光線力学療法の実施第Ⅰ/Ⅱ相試験	飯石 浩康	診療局長	3,000	補委 厚生労働省
臨床的リンパ節転移陰性胃癌に対するセンチネルリンパ節生検の安全性に関する多施設共同臨床試験研究	宮代 勲	消化器外科	0	補委 厚生労働省
ナノサイズリポソームを用いた急性心筋梗塞治療法の開発	堀 正二	総長	0	補委 厚生労働省
抗心不全薬（急性・慢性）に関する臨床評価ガイドラインの作成に関する研究	堀 正二	総長	0	補委 厚生労働省
生化学的創薬戦略による人工アジュバンドの開発	赤澤 隆	研究所分子遺伝学部門	2,730	補委 文部科学省
癌細胞の擬似的微生物の化ツールの開発とワクチンへの応用	赤澤 隆	研究所分子遺伝学部門	9,360	補委 文部科学省

研 究 課 題 名	研究者氏名	所属部門	金 額	補助元又は委託元	
がん浸潤転移に至る冗費組織構造の再構築	三好 淳	研究所分子生物学部門	6,800	補委 文部科学省	
ハプロイドDNAを用いた日本人ゲノム多様性情報基盤の高度化	久木田 洋児	研究所免疫学部門	8,580	補委 文部科学省	
(九州大学・生体防御医学研究所田平 知子助教授)	久木田 洋児	研究所免疫学部門	1,000	補委 文部科学省	
がん細胞の極性形成の異常と細胞接着シグナリング(神戸大学高井義美教授)	岡本 三紀	研究所分子生物学部門	10,000	補委 文部科学省	
肉腫幹細胞の性状解析とウイルス工学を応用した幹細胞標的医薬の開発	高橋 克仁	研究所病態生理学部門	9,360	補委 文部科学省	
ウイルス好みを宇要した肉腫標的医薬の開発	山村 倫子	研究所病態生理学部門	1,820	補委 文部科学省	
骨・軟部腫瘍の転移に対するSSXを標的とした治療法の開発	吉岡 潔子	研究所生物学部門	1,430	補委 文部科学省	
VEGF阻害が浸潤形質を誘導する分子メカニズムの解明	井上 正宏	研究所生化学部門	1,690	補委 文部科学省	
転写因子PBX1を介した抗アポトーシス経路と転移との関連の解明	富田 裕彦	病理・細胞診断科	1,690	補委 文部科学省	
骨軟部悪性腫瘍からのがん幹細胞の分離・同定と、浸潤・転移における役割の解明	伊藤 和幸	研究所生物学部門	1,600	補委 文部科学省	
微少遺伝子変異の高感度検出によるゲノム耐性予測	谷口 一也	研究所免疫学部門	1,560	補委 文部科学省	
HVB持続発現小動物モデルを用いたHVB複製機構ならびにHVB変異誘発機構の解明	大川 和良	肝胆膵内科	1,430	補委 文部科学省	
細胞接着とシグナル伝達による細胞の形態形成機構(神戸大学・医科学研究科高井義美教授)	岡本 三紀	研究所分子生物学部門	7,000	補委 文部科学省	
MORC3によるPMLボディ機能の調節機構	井上 徳光	研究所分子遺伝学部門	1,950	補委 文部科学省	
遺伝子治療を併用した樹状細胞による新規癌免疫治療法の研究	赤澤 隆	研究所分子遺伝学部門	50	補委 文部科学省	
				補委	小計
				補委	15
				補委	計
				補委	71

(注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Surg Today. 39 (3) : 194-200, 2009.3	Innate immune therapy with a Bacillus Calmette-Guerin cell wall skeleton after radical surgery for non-small cell lung cancer: A case-control study.	Akazawa T	研究所
Cancer Science.100(8) : 1494-501, 2009.8	Enhancement of antitumor natural killer cell activation by orally administered Spirulina extract in mice.	Akazawa T	研究所
Biochem Biophys Res Commun . 383:303-7(2009)	Normal islet vascularization is dispensable for expansion of beta-cell mass in response to high-fat diet induced insulin resistance.	Inoue M	研究所
Cancer Cell. 15:220-31(2009)	Antiangiogenic therapy elicits malignant progression of tumors to increased local invasion and distant metastasis.	Inoue M	研究所
Clin. Cancer. Res. 15(14)4529-4530 : (2009)	Preclinical Drug Development Must Consider the Impact on Metastasis.	Itoh K	研究所
Clin. Orthop. Relat. Res. 467 : 3087-3095 : (2009)	Stimulation of Ectopic Bone Formation in Response to BMP-2 by Rho Kinase Inhibitor : A pilot Study.	Itoh K	研究所
Drug Resistant Neoplasms. 4: 133-148 : (2009)	Mechanisms of Resistance to EGF Receptor-Tyrosine Kinase Inhibitor in NSCLC Cell Lines : Gefitinib Sensitivity is Closely Correlated with Ligand-Induced Endocytosis of Phosphorylated EGF Receptor.	Itoh K	研究所
Int. J. Oncology . 36(4)823-831 : (2010)	Downregulation of SS18-SSX1 expression in synovial sarcoma by small interfering RNA enhances the focal adhesion pathway and inhibits anchorage-independent growth in vitro and tumor growth in vivo.	Itoh K	研究所
Cancer Cell.15:220-231(2009)	Antiangiogenic therapy elicits malignant progression of tumors to increased local invasion and distant metastasis	Inoue M	研究所
Oncology Reports.22:257-264(2009)	Proliferation of estrogen-responsive mouse tumor cell line B-1F stimulated by Saiboku-to, but inhibited by Scutellaria baicalensis, a component of Saiboku-to	Nishizawa Y	研究所
Int..J. Oncol.36:553-562(2010)	The pure anti-androgen bicalutamide inhibits cyclin A expression both in androgen-dependent and -independent cell lines	Nishizawa Y	研究所

小計

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床化学. 38(2)132-139 : (2009)	がん転移のメカニズムと標的治療.	伊藤和幸	研究所
臨床整形外科. 45(2)168-171 : (2010)	SSX(Synovial Sarcoma X chromosome breakpoint)遺伝子	吉岡潔子	研究所
Am J Gastroentel. 105(2) : 314-322(2010)	Efficacy of an Endo-Knife with a Water-Jet Function (Flushknife) for Endoscopic Submucosal Dissection of Superficial Colorectal Neoplasms.	Takeuchi Y	消化管内科
Gastrointestinal Endoscopy. 71(2) : 399-400(2010)	Autofluorescence imaging of a diminutive, depressed-type early colon cancer invaded to the submucosal layer.	Takeuchi Y	消化管内科
Dis Esophagus. Epub 2010 Jan 20.	Prospective evaluation of narrow-band imaging endoscopy for screening of esophageal squamous mucosal high-grade neoplasia in experienced and less experienced endoscopists.	Ishihara R	消化管内科
Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2010 Jan 1;76(1):123-9.	Factors predictive of tumor recurrence and survival after initial complete response of esophageal squamous cell carcinoma to definitive chemoradiotherapy.	Ishihara R	消化管内科
Endoscopy 2009;41:923-928	Endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer performed by supervised residents:assessment of feasibility and learning curve	Yamamoto.S	消化管内科
J Gastroenterol. 2010;45(1):45-51. Epub 2009 Oct 30.	Autofluorescence imaging videoendoscopy in diagnosis of chronic atrophic fundal gastritis.	Inoue.T	消化管内科
Gastric Cancer. 2009;12(4):219-24. Epub 2010 Jan 5.	Analysis of the color patterns of early gastric cancer using an autofluorescence imaging video endoscopy system	Uedo N	消化管内科
Gastric Cancer.Digestion. 2010;81:223-230.	Helicobacter pylori Eradication Prevents Extension of Intestinalization Even in the High-Risk Group for	Uedo N	消化管内科
Gastrointest Endosc. 2009; 69: 588-90.	A rare case of histologically mixed-type intramucosal gastric cancer accompanied by nodal recurrence and liver metastasis after endoscopic submucosal dissection.	Hanaoka N	消化管内科
Endoscopy. 2009; 41: 427-32.	Mixed-histologic-type submucosal invasive gastric cancer as a risk factor for lymph node metastasis: feasibility of endoscopic submucosal dissection.	Hanaoka N	消化管内科

小計

12

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
World J Gastroenterol. 2009;15: 3445-7	Fulminant amoebic colitis during chemotherapy for advanced gastric cancer.	Hanaoka N	消化管内科
Esophagus, 6:243-248(2009)	Endoscopic classification of local recurrence after definitive chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma	Yamamoto.S	消化管内科
Am.J. Gastroentel. 105(2) : 314-322(2010)	Efficacy of an Endo-Knife with a Water-Jet Function (Flushknife) for Endoscopic Submucosal Dissection of Superficial Colorectal Neoplasms.	Takeuchi Y	消化管内科
Gastrointestinal Endoscopy. 71(2) : 399-400(2010)	Autofluorescence imaging of a diminutive, depressed-type early colon cancer invaded to the submucosal layer.	Takeuchi Y	消化管内科
J.interferon and cytokine research 29:353-368(2009.6)	Multiple cytokine profiling of the therapeutic responses to ribavirin and pegylated interferon- α 2b using an "Induction" approach with natural interferon- β in difficult-to-treat chronic hepatitis C.	Katayama K	肝胆膵内科
J Viral Hepat.16:586-594,2009.8	Ribavirin dose reduction raises relapse rate dose-dependently in genotype 1 patients with hepatitis C responding to pegylated interferon alpha-2b plus ribavirin.	Imanaka K	肝胆膵内科
J Med Virol.81:798-806(2009.5)	Mutations associated with the therapeutic efficacy of adefovir dipivoxil added to lamivudine in patients resistant to lamivudine with type B chronic hepatitis.	Ohkawa K	肝胆膵内科
J Hepatol.50:1155-62(2009.6)	Activated liver dendritic cells generate strong acquired immunity in alpha-galactosylceramide treatment.	Ohkawa K	肝胆膵内科
J Gastroenterol 44 : 601-607(2009.6)	Factors contributing to antiviral effect of adefovir dipivoxil therapy added to ongoing lamivudine treatment in patients with lamivudine-resistant chronic hepatitis B.	Ohkawa K	肝胆膵内科
J Viral Hepat. 16 : 578-585(2009.8)	Pegylated interferon alpha-2b (Peg-IFN alpha-2b) affects early virologic response dose-dependently in patients with chronic hepatitis C genotype 1 during treatment with Peg-IFN alpha-2b plus ribavirin.	Ohkawa K	肝胆膵内科

小計

10

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Gastroenterol. 44 : 864-70(2009.8)	Lamivudine-to-entecavir switching treatment in type B chronic hepatitis patients without evidence of lamivudine resistance.	Ohkawa K	肝胆膵内科
Antivir Ther. 14 : 873-877(2009.6)	Two kinds of drug-resistant hepatitis B viral strains emerging alternately and their susceptibility to combination therapy with entecavir and adefovir.	Ohkawa K	肝胆膵内科
Hepatology.50; 1217-26 (2009.10)	Mcl-1 and Bcl-xL cooperatively maintain integrity of hepatocytes in developing and adult murine liver.	Ohkawa K	肝胆膵内科
Cancer Immunol Immunother. 59 : 453-63 (2010.3)	Natural killer cell is a major producer of interferon gamma that is critical for the IL-12-induced anti-tumor effect in mice.	Ohkawa K	肝胆膵内科
Cancer Res. 69 : 8050-7(2009.10)	Anticancer chemotherapy inhibits MHC class I-related chain A ectodomain shedding by downregulating ADAM10 expression in hepatocellular carcinoma.	Ohkawa K	肝胆膵内科
Hepatology. 394 : 87-93 (2010.3)	BH3-only protein bid participates in the Bcl-2 network in healthy liver cells.	Ohkawa K	肝胆膵内科
Biochem Biophys Res Commun. 394 : 87-93 (2010.3)	Fatal exacerbation of type B chronic hepatitis triggered by changes in relaxed circular viral DNA synthesis and virion secretion.	Ohkawa K	肝胆膵内科
J Viral Hepat. 16 : 578-585(2009.8)	Reduced risk of hepatocellular carcinoma after interferon therapy in aged patients with chronic hepatitis C is limited to sustained virological responders.	Imanaka K	肝胆膵内科
J Viral Hepat.16:578-585(2009.8)	Pegylated interferon alpha-2b (Peg-IFN alpha-2b) affects early virologic response dose-dependently in patients with chronic hepatitis C genotype 1 during treatment with Peg-IFN alpha-2b plus ribavirin.	Imanaka K	肝胆膵内科
Hepatology Res.39:432-438(2009.5)	Effect of interferon alpha-2b plus ribavirin therapy on incidence of hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis.	Imanaka K	肝胆膵内科
Gastrointest Endosc 70:52-59 (2009.7)	Scraping cytology with a guidewire for pancreatic-ductal strictures.	Uehara H	肝胆膵内科
J Gastroenterol.44:1190-1194(2009.12)	Hepatocellular carcinoma arising from non-cirrhotic nonalcoholic steatohepatitis.	Kawada N	肝胆膵内科

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Annals of Oncology. 20(9) : 1483- 1488(2009.9)	Quality of life and disease-related symptom in previously treated Japanese patients with non-small-cell lung cancer : results of a randomized phase III study(V-15-32) of gefitinib versus docetaxel.	Imamura F	呼吸器内科
Annals of Oncology. 20(11) : 1860- 1866(2009.9)	A phase II study of palonosetron combined with dexamethasone to prevent nausea and vomiting induced by highly emetogenic chemotherapy.	Imamura F	呼吸器内科
Antimicrob Agents Chemother. 2009 Oct;53(10):4559-62.	Antifungal activity of micafungin in serum.	Ishikawa J	血液・化学療法科
Surg Today. 2009;39(2):133-6.	Combined autologous cellular cardiomyopathy using skeletal myoblasts and bone marrow cells for human ischemic cardiomyopathy with left ventricular assist system implantation:report of a case.	Ishikawa J	血液・化学療法科
J Hematol. 2009 Jun;89(5):679-88.	A Phase I/II study of nilotinib in Japanese patients with imatinib-resistant or -intolerant Ph+ CML or relapsed/refractory Ph+ ALL.Int	Ishikawa J	血液・化学療法科
J, Hepatobiliary Pancreat Surgery. 16(4) : 485-492(2009)	The effect of adjuvant and neoadjuvant chemo(radio)therapy on survival in 1679 resected pancreatic carcinoma cases in Japan.	Sata N	消化器外科
Esophagus. 6111- 116(2009)	Assessment of neoadjuvant chemotherapy for patients with advanced squamous cell carcinoma of the esophagus.	Yano M	消化器外科
Ann Surg. 250: 88- 95(2009)	Feasibility and Efficacy of Combination Therapy With Preoperative Full-Dose Gemcitabine, Concurrent Three-Dimensional Conformal Radiation, Surgery and Postoperative Liver Perfusion Chemotherapy for T3-Pancreatic Cancer.	Ohigashi H	消化器外科
Int J Clin Oncol. 14(5) : 416-420(2009)	Current therapeutic strategies for anal squamous cell carcinoma in Japan.	Ohue M	消化器外科
Ann Surg Oncol. 161721-1721(2009)	High Sensitivity of Indocyanine Green Fluorescence Imaging in Detection of Sentinel Node.	Miyashiro I	消化器外科
Gastric Cancer. 1237- 42(2009)	Phase II trial of S-1 for neoadjuvant chemotherapy against scirrhus gastric cancer (JCOG0002).	Miyashiro I	消化器外科
J.Hepato Biliary Pancreatic Surgery. 16(4) : 538-545(2009)	Usefulness of the CLIP scoring system for prediction of postoperative prognosis of patients with large hepatocellular carcinoma.	Noda T	消化器外科

小計

12

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Ann Surg Oncol. 17144-151(2010)	Feasibility of a lateral region sentinel node biopsy of lower rectal cancer guided by indocyanine green using a near-infrared camera system.	Ohue M	消化器外科
Dig Surg. 26(5) : 400-405(2009)	Second Primary Cancer in Patients with Colorectal Cancer after a Curative Resection.	Noura S	消化器外科
Dis colon Rectum. 52(7) : 1312-1320(2009)	Long-Term Prognostic Value of Conventional Peritoneal Lavage Cytology in patients Undergoing Curative Colorectal Cancer Resection	Noura S	消化器外科
Amer J Surg. 19(5) : 66-71	Real-time and the in vivo detection of minute cancer invasion to the portal-superior mesenteric vein using contact endoscopy during a pancreatic cancer resection	Eguchi H	消化器外科
Pancreas. 38(7) : 791-798(2009)	Serum REG4 Level is a Predictive Biomarker for the Response to Preoperative Chemoradiotherapy in Patients With Pancreatic Cancer.	Eguchi H	消化器外科
Surgery. 14(5) : 888-895(2009)	Presence of minute cancer cell dissemination in peritoneal lavage fluid detected by reverse transcription PCR is an independent prognostic factor in patients with resectable pancreatic cancer.	Eguchi H	消化器外科
Cancer Sci. 10(3) : 457-464(2009)	Identification of C2orf18, termed ANT2BP(ANT2-bindign protein), as one of the key molecules involved in pancreatic carcinogenesis .	Eguchi H	消化器外科
Autophagy. 5(3) : 351-360(2009)	Participation of autophagy in the initiation of graft dysfunction after rat liver transplantation .	Gotoh K	消化器外科
J. Surgical Oncology. 1075-79(2009)	A Novel Image-Guided Surgery of Hepatocellular Carcinoma by Indocyanine Green Fluorescence Imaging Navigation.	Gotoh K	消化器外科
INT.J.ONCOL. 35265-271(2009)	The feasibility of using biopsy samples from esophageal cancer for comprehensive gene expression profiling.	Motoori M	消化器外科
Ann Surg Oncol. 16(6) : 1520-1525(2009)	Accumulation of excess visceral fat is a risk factor for pancreatic fistula formation after total gastrectomy.	Tanaka K	消化器外科
Surgery Today. 39(11) : 972-978(2009)	Candida esophagitis complicated by an esophago-airway fistula:report of a case.	Kanzaki R	消化器外科
Ann Surg Oncol. 162531-2538(2009)	CD74 is a novel prognostic factor for patients with pancreatic cancer receiving multimodal therapy.	Eguchi H	消化器外科

小計

13

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J.Surgical Oncology. 99302-306(2009)	Myelotoxicity of Preoperative Chemoradiotherapy Is a Significant Determinant of Poor Prognosis in Patients With T4 Esophageal Cancer	Miyoshi N	消化器外科
Surg Endosc. 23(2) : 347-351(2009)	Surgical usefulness of indocyanine green as an alternative to India ink for endoscopic marking.	Miyoshi N	消化器外科
Dis Esophagus. 22(4) : 291-297(2009)	Effects of neoadjuvant chemotherapy on primary tumor and lymph node metastasis in esophageal squamous cell carcinoma : additive association with prognosis.	Akita H	消化器外科
Int J Oncol. 36(2):313-20 (2010)	Talaporfin-mediated photodynamic therapy for peritoneal metastasis of gastric cancer in an in vivo mouse model: drug distribution and efficacy studies.	Kishi K	消化器外科
Surgery Today. 39() : 194-200(2009)	Innate Immune Therapy with a Bacillus Calmette-Guerin Cell Wall Skelton After Radical Surgery for Non-Small Cell Lung Cancer : A Case-Control Study.	Kodama K	呼吸器外科
Oncology Reports. 21() : 1367-1372(2009)	Down regulation of drs tumor suppressor gene in highly malignant human pulmonary neuroendocrine tumor.	Kodama K	呼吸器外科
J Clin Oncol. 4(12) : 1511-1516(2009)	Effect of postoperative adjuvant chemotherapy with Tegafur-Uracil on survival in patients with stage 1A non-small cell lung cancer.	Kodama K	呼吸器外科
J.Medical case Reports. 3() : 6800(2009)	Malignant pleural mesothelioma with long-term tumor disappearance of local relapse after surgery : a case report.	Higashiyama M	呼吸器外科
Eur J.Cardio-thoracic Surgery. 35() : 337-42(2009)	Prognostic value of intraoperative pleural lavage cytology for lung cancer without carcinomatous pleuritis : Importance in patients with early stage disease during long-term follow-up.	Higashiyama M	呼吸器外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg. 15(6) : 404-407(2009)	A case report of large thymic hyperplasia associated with hyperthyroidism.	Higashiyama M	呼吸器外科
Interact Cardio Vasc Thorac Surg. () : 728-729(2009)	Solitary plumonary metastasis of mucoepidermoid carcinoma of the palate 43 years after the initial treatment.	Okami J	呼吸器外科

小計

11

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Lung Cancer. 65() : 324-327(2009)	Rapid diagnosis of lymph node metastasis in lung cancer with loop-mediated isothermal amplification assay using carcinoembryonic antigen-mRNA.	Maeda J	呼吸器外科
Int.Cardio Vascular Thoracic Surgery. 8(4) : 485-487(2009)	Surgical treatment for patients with solitary metastasis in the mediastinal lymph node from renal cell carcinoma.	Kanzaki R	呼吸器外科
Jo.Thoracic Oncology. 4:1247-1253(2009)	Pulmonary Resection in Patients Aged 80 Years or Over with Clinical Stage I Non-small Cell Lung Cancer, Prognostic Factors for Overall Survival and Risk Factors for Postoperative Complications.	Okami J	呼吸器外科
Breast Cancer. 16: 239-240(2009)	Management of breast cancer: from standardization to personalization.	Inaji H	乳腺・内分泌外科
Br J Cancer.101: 598-604(2009)	Uracil-tegafur and tamoxifen vs cyclophosphamide, methotrexate, fluorouracil, and tamoxifen in post-operative adjuvant therapy for stage 1,2, or 3A lymph node-positive breast cancer. A comparative study.	Inaji H	乳腺・内分泌外科
Breast Cancer Res Treat. 119: 633-641(2010)	Efficacy of oral tegafur-uracil(UFT) as adjuvant therapy as compared with classical cyclophosphamide, methotrexate, and 5-fluorouracil (CMF) in early breast cancer: a pooled analysis of two randomized controlled trials (N-SAS BC 01 trial and CUBC trial).	Inaji H	乳腺・内分泌外科
Oncology. 78: 302-308(2010)	Phase 2 trial in Japan of sequential administration of weekly paclitaxel followed by FEC as neoadjuvant chemotherapy for locally advanced breast cancer[KBCSG206 trial].	Inaji H	乳腺・内分泌外科
Ann Oncol. 20: 868-873(2009)	Evaluation of the safety and tolerability of oral TAS-108 in postmenopausal patients with metastatic breast cancer.	Inaji H	乳腺・内分泌外科
Clin Cancer Res. 15: 2879-2884(2009)	Molecular detection of lymph node metastases in breast cancer patients: results of a multicenter trial using the one-step nucleic acid amplification assay.	Inaji H	乳腺・内分泌外科
Breast J of Ipsilateral breast tumor recurrence. 16 : 9-13(2010.1)	Early response to neo-adjuvant chemotherapy in carcinoma of the breast predicts both successful breast-conserving surgery and decreased risk.	Ishitobi M	乳腺・内分泌外科

小計

10

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Anticancer Res. 29:4791-4794(2009.11)	Retrospective analysis of concurrent vs. sequential administration of radiotherapy and hormone therapy using aromatase inhibitor for hormone receptor-positive postmenopausal breast cancer.	Ishitobi M	乳腺・内分泌外科
Annals of Nuclear Medicine. 23:89-95(2009)	Evaluation of chemotherapy response in osteosarcoma with FDG-PET	Hamada K	整形外科
Eur J.Orth.Surg.Traumatol. 19:547-551(2009)	Intercalary endoprsthetic reconstruction for impending pathological fractures in patients with femoral diaphyseal bone metastases	Hamada K	整形外科
J Cancer Res Clin Oncol.135:891-900(2009)	Differentiation between neurofibromas and malignant peripheral nerve sheath tumors in neurofibromatosis 1 evaluated by MRI.	Naka N	整形外科
Anticancer Res.29 : 2357-2390(2009)	Expression of HMGA2-LPP and LPP-HMGA2 fusion genes in lipoma: Identification of a novel type of LPP-HMGA2 transcript in four cases.	Naka N	整形外科
Cancer Sci.100 : 1227-1233(2009)	Orphan receptor tyrosine kinase ROR2 as a potential therapeutic target for osteosarcoma.	Naka N	整形外科
J .Am.Col.Cardiol. 53(5) : 426-435(2009.2.3)	Cardiac iodine-123 metaiodobenzylguanidine imaging predicts sudden cardiac death independently of left ventricular ejection fraction in patients with chronic heart failure and left ventricular systolic dysfunction : results from a comparative study with signal-averaged electrocardiogram, heart rate variability and QT dispersion.	Hori M	循環器内科
Cardiovascular Research. (81) : 457-464(2009)	Oxidative stress and left ventricular remodelong after myocardial infarction.	Hori M	循環器内科
Am Heart J. 157(5) : 805-810e2(2009.5)	Rationale and design of RE-LY : Randomized evaluation of long-term anticoagulant therapy, warfarin, compared with dabigatran.	Hori M	循環器内科
J.Biolog. Chem. 284(42) : 29041-29049(2009)	Prolyl4-Hydroxylation of α -Fibrinogen A NOVEL PROTEIN MODIFICATION REVEALED BY PLASMA PROTEMICS.	Ioka T	検 診 部
Radiology . 254(3) : 965-972(2010.3)	Slight dilatation of the main pancreatic duct and presence of pancreatic cysts as predictive signs of pancreatic cancer : a prospective study.	Tanaka S	検 診 部
日本レーザー医学会雑誌. 第30巻第1号37-40. 2009.4.15.	特殊光を用いた内視鏡診断---自家蛍光内視鏡による上部消化管疾患の診断	上堂文也	消化管内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
胃と腸44巻4号767-775. 2009.4.24. 医学書院	自家蛍光内視鏡、赤外線内視鏡---早期胃癌2009.	上堂文也	消化管内科
G.I. Research、17巻6号 229-235. 2009.6.1.	AFIとNBを慢性胃炎、早期胃癌の診断に活かす	井上拓也	消化管内科
消化器がんESD即戦マ ニュアル. 2009.6.1.金 芳堂	ESDの実際、胃	上堂文也	消化管内科
臨床消化器内科.24巻10 号1339-1348.2009.8.20. 日本メディカルセンター	胃の色素内視鏡.	上堂文也	消化管内科
胃と腸45巻1号132-140. 2010.1.25. 医学書院	内視鏡による早期胃癌のIIB範囲診断-- -AFI (autofluorescence imaging)の立 場から.	花房正雄	消化管内科
今日の消化器疾患治療指 針(第3版). 2010.3.15. 医学書院	上部消化管内視鏡検査	上堂文也	消化管内科
Case studyで身につける 食道・胃ESD. 羊土社	画像強調(NBI)・拡大内視鏡診断 「胃」	上堂文也	消化管内科
今日の消化器疾患治療指 針	第3章 画像診断、胃内視鏡.	上堂文也	消化管内科
Case studyで身につける 食道・胃ESD	第一章 治療法選択のための術前内視鏡 診断、3) 画像強調(NBI)・拡大内視 鏡診断. II. 胃.	上堂文也	消化管内科
消化器内視鏡21:4; 615- 619(2009)	極めつけ大腸内視鏡 極めつけ診断法 色素はどんな時にどう使うか	鼻岡昇	消化管内科
消化器内視鏡21:3;404- 405(2009)	アトラス消化管感染症 臓器別にみた消 化管感染症 食道 ヘルペス食道炎	鼻岡昇	消化管内科
総合臨床58:9; 1935- 1942(2009)	診断法の進歩 内視鏡診断法の進歩 上部消化管拡大内視鏡、蛍光内視鏡	鼻岡昇	消化管内科
日本臨床別冊消化管症候 群(上) 589-591(2009)	消化管症候群(第2版) その他の消化管 疾患を含めて 十二指腸 十二指腸重複 症	鼻岡昇	消化管内科
臨床消化器内科 25:3;295-302(2010)	頭頸部癌症例における上部消化管発癌 リスク	鼻岡昇	消化管内科
胃と腸 2009 June;44(7):1188-96.	腺癌と鑑別を要する食道接合部病変	河田奈都子	消化管内科
消化器内視鏡. 22(1): 84-92(2010)	各種画像診断を利用した胃癌診断	竹内洋司	消化管内科
消化器外科NURSING. 14(11):24-31(2009)	内視鏡的粘膜切除術:粘膜下層剥離術	竹内洋司	消化管内科
臨床消化器内科. 24(6):733-740(2009.6)	B型慢性肝炎に対する強化ワクチン療法	片山和宏	肝胆膵内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
肝臓. 50 : 356-361 (2009.7)	慢性肝疾患患者を対象とした肝臓病教室での情報提供に対する医療者および患者の意識調査に関する検討	片山和宏	肝胆膵内科
日消誌. 106 : 1660-1668 (2009.11)	ダナパロイドナトリウム投与にてDIC様凝固障害を脱し手術が可能となった後腹膜静脈性血管腫による成人Kasabach-Meritt症候群の1例	森口彩	肝胆膵内科
移植の適応2010.45-47	大阪府立成人病センターにおける移植の適応	石川淳	血液・化学療法科
Trends in Hematological Malignancies Vol.	Clinical Interface 大阪府立成人病センター	石川淳	血液・化学療法科
別冊 がんサポート 一冊まるごと血液がん75号 98-103 2009.	可能性が広がった移植細胞源。患者に合った最適な移植を	石川淳	血液・化学療法科
医学のあゆみ. 231(7) : 795-800(2009.11)	大阪府立成人病センターにおけるがん拠点病院としての取り組み	屋木敏也	臨床腫瘍科
癌の臨床. 55(3) : 161-166(2009)	膵癌併用治療戦略と方向性	石川治	消化器外科
科学的根拠に基づく膵癌診療ガイドライン2009年版(日本膵臓学会ガイドライン改定委員会). 129-138(2009.9)	CQ5補助療法.	石川治	消化器外科
腫瘍内科. 5(1) : 26-32(2010.1)	膵がん	石川治	消化器外科
がん診療Q&A ~これからがん診療に携わる人のために~15-22(2009.11)	食道がん ここが知りたい	矢野雅彦	消化器外科
手術. 63(5) : 557-562(2009)	肥満と食道癌手術	矢野雅彦	消化器外科
肥満と糖尿病. 8(3) : 413-415(2009)	特集：がん—肥満・糖尿病との関係 Questionがん術後のグレリンは？胃や食道がんの術後には体重やグレリンはどうなりますか？	矢野雅彦	消化器外科
外科. 71(10) : 1027-1032(2009)	食道癌の補助化学療法	矢野雅彦	消化器外科
がんを治すチカラ. 56-57(2009.9)	食道がんの放射線治療とは？ 早期食道がんを内視鏡で治療する 食道がんの外科手術とは？	矢野雅彦	消化器外科
臨床消化器内科. 24(11) : 1477-1485(2009)	胃切除後障害(5)胃切除後の機能障害とQOLの評価—現状と展望	矢野雅彦	消化器外科
膵癌診療ポケットガイド. 133-140(2010)	補助療法の選択肢	大東弘明	消化器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
消化器外科NURSING. 14(5) : 40(2009)	術前・術後化学放射線療法	大東弘明	消化器外科
手術. 63(3) : 369- 373(2009)	膵消化管吻合時の膵組織損傷の最小化 を目指した膵断端陥入式膵胃壁マッ レス縫合法	大東弘明	消化器外科
癌の臨床. 55(8) : 593- 600(2009.8)	膵癌切除後の長期生存をめざした補助 療法	大東弘明	消化器外科
日本大腸肛門病学会雑 誌. 62(10) : 807- 811(2009)	結腸癌手術における縫合不全の診断と 対策	大植雅之	消化器外科
癌の臨床. 55(2) : 107- 112(2009)	高度進行直腸癌に対する術前化学放射 線療法の可能性	大植雅之	消化器外科
胃外科の要点と盲点(第 2版) 荒井邦佳. 260- 261(2009.7)	胃癌におけるセンチネルリンパ節	宮代勲	消化器外科
がんを治すチカラ. 50- 51(2009.9)	外科手術が必要となる胃がん	宮代勲	消化器外科
日本外科感染症学会雑 誌. 6(1) : 13-18(2009)	中心静脈カテーテル関連血流感染 (CR- BSI)の発生状況からみた適正手術件数 についての検討と今後の課題	山田晃正	消化器外科
日本外科感染症学会雑 誌. 6(6) : 621- 626(2009)	医療経済の観点からみたSSIの影響	荻野崇之	消化器外科
外科治療. 10(2) : 171- 172(2009)	大腸癌手術における創感染対策	荻野崇之	消化器外科
本外科感染症学会雑誌. 6(4) : 331-336(2009)	肝部分切除におけるドレーン省略に関 する検討	神崎隆	消化器外科
外科. 71(6) : 648- 650(2009)	画像Q&A	神崎隆	消化器外科
胸部外科. 62(9) : 770- 771(2009)	末梢小型肺癌 (2cm以下) におけるCT上 の胸膜陥入所見と胸膜浸潤との関係	児玉憲	呼吸器外科
手術. 63(3) : 384- 389(2009)	胸部悪性腫瘍術中偶発症への対応	児玉憲	呼吸器外科
Medico. 40(11) : 438- 446(2009)	座談会: 肺がんの手術	児玉憲	呼吸器外科
手術. 64(2) : 237- 244(2010)	主題II 私の推奨する手術手技3~5 肺癌区域切除(開胸)一局所再発を皆無 にするための工夫	児玉憲	呼吸器外科
和歌山県医師会医学雑 誌. 39() : 26- 29(2010.3)	肺がん診断・治療の現状と将来	児玉憲	呼吸器外科
胸部外科. 63(1) : 9~ 15(2010)	Pancoast型肺癌の手術成績向上をめざ して	児玉憲	呼吸器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本外科学会誌. 110(6) : 326-332(2009)	胸膜中皮腫の治療法の動向 3. 病理 診断と病期分類	東山聖彦	呼吸器外科
外科治療. 100(3) : 242- 249(2009)	抗癌剤感受性試験に基づいた肺癌化学 療法も個別化	東山聖彦	呼吸器外科
日本臨床.68: 692- 693(2010)	CA15-3	稲治英生	乳腺・内分泌外 科
乳癌の臨床. 24: 173- 180(2009)	乳癌診療-標準化から個別化へ	稲治英生	乳腺・内分泌外 科
乳房温存療法改訂版、医 薬ジャーナル社 18/21(2010.4)	乳房温存療法における診療の流れとイ ンフォームドコンセント	小山博記	乳腺・内分泌外 科
Orthotimes.4:1 (2009)	滑膜肉腫は 幹細胞性疾患か?	中 紀文	整形外科
日本耳鼻咽喉科学会会 報. 112(8) : 634- 637(2009)	専門講座 喉頭全摘出術	吉野邦俊	耳鼻咽喉科
頭頸部癌. 35(3) : 250- 256(2009)	日本頭頸部癌学会会員に対する喫煙状 況アンケート結果	吉野邦俊	耳鼻咽喉科
耳鼻と臨床. 55(Snpp1) : 11~ 19(2009.9)	下咽頭癌に対する頸部郭清術先行放射 線治療の妥当性とQOL	上村裕和	耳鼻咽喉科
頭頸部癌学会誌. 35(4) : 370-373(2009)	舌癌N1に対する頸部郭清術の郭清範囲 に関する検討	鈴木基之	耳鼻咽喉科
JOHNS. 26(2) : 209- 213(2010.2)	唾液腺腫瘍の治療における問題点 粘 表皮癌の治療方針は	鈴木基之	耳鼻咽喉科
厚生指標. 56(1) : 21- 26(2009.1)	大阪府におけるがん患者に対する放射 線療法実施の実態と需要量の予測ー放 射線療法専門施設および米国との比較 より	西山謹司	放射線治療科
癌の臨床. 54(12) : (2008)	cStage II, III 食道癌に対する治療戦略 ー手術vs化学放射線療法ー	西山謹司	放射線治療科
癌の臨床. 55(2) : (2009)	特集: 直腸癌に対する側方リンパ節郭 清と術前化学放射線療法の治療成績 高度進行直腸癌に対する術前化学放射 線療法の可能性	西山謹司	放射線治療科
B10 Clinica. 24(13) : 13(1137)(2009)	危機管理と行動科学	堀正二	循環器内科
日本医師会雑誌. 137(11) : 2317- 2320(2009.2)	第52回社会保険指導者講習会 総合討 論: 心血管疾患のより良き診療を目指 して 診断から治療までのピット フォール	堀正二	循環器内科
日本医師会雑誌. 137(11) : 2325- 2328(2009.2)	第52回社会保険指導者講習会 心血管 疾患のより良き診療を目指して	堀正二	循環器内科
循環器研修ビジュアルシ リーズ (DVD) 第2版. (2009.3)	vol.1急性心不全の診断と治療戦略	堀正二	循環器内科

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
循環器科. 65(5) : 496-502(2009.5)	慢性心不全に対する薬物療法	堀正二	循環器内科
大阪医学(大阪府医師会医学学会). 42(1) : 5-11(2009.7)	特別医学講座 遺伝子解析がもたらした診療のパラダイム・シフト	堀正二	循環器内科
日本内科学会雑誌. 98(9) : 2086(12)-2100(26)(2009.9.10)	慢性心不全の病態と治療の新展開	堀正二	循環器内科
日本内科学会雑誌. 98(9) : 2188(114)-2193(119)(2009.9.10)	循環器疾患のEBM 心不全	堀正二	循環器内科
大阪府内科医会 会誌. 18(2) : 197-207(2009.10)	見逃されている高齢者心不全—拡張性心不全の病態・診断・治療	堀正二	循環器内科
臨床医のための循環器診療. (11) : 52-53(2009.11)	拡張性心不全にRAS抑制は有効か	堀正二	循環器内科
Therapeutic Research. 30(11) : 1687-1693(2009.12)	心房細動患者における心血管病の予防—いつ、どのように治療するか	堀正二	循環器内科
最新の治療2010-2011. (2010.2.15)	循環器疾患	堀正二	循環器内科
日本臨床. 68(4) : 587-591(2010)	ACSの現状と展望	堀正二	循環器内科
全自病協雑誌. 48(1)	がん専門診療施設を利用した入院患者の満足度～平成19年度調査結果と6年間の変化の考察～	淡田修久	循環器内科
医業ジャーナル. 45,S-1 : 243-247(2009.1)	抗凝固剤・抗血小板剤	淡田修久	循環器内科
MR画像解剖ハンドブック 杉村和朗 監修 土井司・笠井俊文 共編. 112-132(2009.2)	CHAPTER5 上腹部	堀之内隆	放射線診断科
日本放射線技術学会 核医学分科会誌. (58) : 54-57(2009.4)	腹部領域における画像診断—肝臓における画像診断—(MRI分野)	堀之内隆	放射線診断科
本臨床微生物学雑誌. 19(3) : 163-170(2009.10)	Nocardia asiaticaによる脳膿瘍の1症例	龍あゆみ	臨床検査科
乳癌の臨床. 24(6) : 774-775(2009.12)	乳腺の難治症例の検討 —細胞診の立場から—	龍あゆみ	臨床検査科
肥満と糖尿病. 8(3) : 386-387(2009.5)	膵臓がんの早期発見とは?	田中幸子	検 診 部
胆膵内視鏡診療の実際. 17-22(2009.5)	胆膵画像診断の実際 : US	田中幸子	検 診 部
がん診療update. 323-324(2009.6)	患者支援と地域医療連携 がん患者の外来フォローアップ計画	田中幸子	検 診 部
消化器科. 49(6) : 526-532(2009.12)	主膵管拡張と膵嚢胞に着目した膵癌早期診断のための定期健診	田中幸子	検 診 部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Med Ultrasonics. 37(1): 39-40(2010.1)	長井裕氏による「最新超音波診断装置の分解能」超音波医学2007; 34(2): 151-7に関して	田中幸子	検診部
肝胆膵画像. 12(2): 229-234(2010.2)	超音波による膵癌高危険群の同定—主膵管拡張と膵のう胞	田中幸子	検診部
肝胆膵. 59(5): 1103-1110	局所進行膵癌に対する新規放射線化学療法: Gemcitabine, S-1時代のレジメと成績	井岡達也	検診部
がん診療Q&A. 1: 53-60	各論(膵がん) ここが知りたい	井岡達也	検診部
肝胆膵. 60(3): 447-455(2010.3)	膵臓疾患に対する造影超音波・通常型膵癌体外式造影超音波診断	高倉玲奈	検診部
Journal of Viral Hepatitis. (2009) online publication	Risk factors for intrahepatic cholangiocarcinoma: a possible role of hepatitis B virus	Tanaka M	がん予防情報センター
Asian Pac J Cancer Prev. 10(3)457-62 (2009)	Factors relating to poor survival rates of aged cervical cancer patients: a population-based study with the relative survival model in Osaka, Japan	Ioka A	がん予防情報センター
Cancer Sci. 100(12) 2390-5 (2009)	Trends in cancer incidence and mortality in Osaka, Japan: Evaluation of cancer control activities	Ito Y	がん予防情報センター
Cancer Sci. 100(7) 1306-11 (2009)	Regional differences in population-based cancer survival between six prefectures in Japan: application of relative survival models with funnel plots	Ito Y	がん予防情報センター
Jpn J Clin Oncol. 39(10) 690-4 (2009)	Gender differences in stomach cancer survival in Osaka, Japan: analyses using relative survival model	Sato N	がん予防情報センター
Asian Pac J Cancer Prev. 10(6) 1191-8 (2009)	Proposal for a cooperative study on population-based cancer survival in selected registries in East Asia	Tanaka H	がん予防情報センター
Jpn J Clin Oncol. 39(3) 189-91 (2009)	Trends in colorectal cancer incidence by subsite in Osaka, Japan	Toyoda Y	がん予防情報センター
World J Gastroenterol. 15(34) 4290-7 (2009)	Does Helicobacter pylori eradication therapy for peptic ulcer prevent gastric cancer?	Tsukuma H	がん予防情報センター
Journal of Smoking Cessation. 4(2) 86-91 (2009)	Sensitivity Analysis of the Efficacy of Varenicline in Smoking Cessation With a Special Reference to Study Dropouts	Oshima A	がん予防情報センター
Jpn J Clin Oncol. 39(2) 127-31 (2009)	Trends of centralization of childhood cancer treatment between 1975 and 2002 in Osaka, Japan	Ito Y	がん予防情報センター

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Clin Oncol. 39(6) 339-51 (2009)	The Japanese guideline for prostate cancer screening	Nakayama T	がん予防情報センター
J Epidemiol. 20(3)244-52 (2010)	Use of a population-based cancer registry to calculate twenty-year trends in cancer incidence and mortality in Fukui Prefecture	Ito Y	がん予防情報センター
病理と臨床. 27(12) 1166-70 (2009)	【細胞診の進歩】 肺癌におけるベッドサイド細胞診、術中捺印細胞診の判定基準と有用性	中山富雄	がん予防情報センター
成人病と生活習慣病. 39(6) 713-6 (2009)	【ガイドラインup to date 新ガイドライン・改訂ガイドラインのポイント】 有効性評価に基づく前立腺がん検診ガイドライン	中山富雄	がん予防情報センター
日本がん検診・診断学会誌. 16(3) 36-40 (2009)	厚生労働省研究班作成前立腺がんガイドラインについて	中山富雄	がん予防情報センター
肺癌. 49(1) 92-7 (2009)	肺がん検診システムの問題点	中山富雄	がん予防情報センター
日本臨床. 67(増刊号3 肝癌) 278-82 (2009)	【肝癌 基礎・臨床研究のアップデート】 肝癌の疫学 胆管細胞癌の疫学	田中政宏	がん予防情報センター
厚生の指標. 56(15) 13-9 (2009)	がん専門病院における禁煙支援クリニカルパスの実施	田中政宏	がん予防情報センター
厚生の指標. 56(1) 21-5 (2009)	大阪府におけるがん患者に対する放射線療法実施の実態と需要量の予測 放射線療法専門施設および米国との比較より	伊藤ゆり	がん予防情報センター
癌と化学療法. 36(7) 1131-4 (2009)	大阪府における癌在宅死の動向 1995～2006年	豊田泰弘	がん予防情報センター
厚生の指標. 57(1)28-35 (2010)	大阪府におけるがん患者受療動態および地域別生存率の検討	伊藤ゆり	がん予防情報センター
			小計 11
			計 218

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 石川 治
管理担当者氏名	総務人事マネージャー 頼友明、経営企画マネージャー 山形三津留、薬局長 榭喜恵、医療情報主任部長 松永隆、放射線診断科主任部長 中西克之

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療情報部、中央手術室、看護部、放射線診断科、各診療科、病歴管理室	カルテ等病歴資料は、外来・入院別に患者一カルテ方式とし、一つのID番号により病歴管理室で集中管理を行っている。 エックス線写真は、放射線診断科で集中保管している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務人事G	人事管理システムで保管	
	高度の医療の実績	医療情報部	コンピュータ管理他	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務人事G	年度毎にファイルに綴じて保管	
	高度の医療の研修の実績	総務人事G	年度毎にファイルに綴じて保管	
	閲覧実績	医事G	年度毎にファイルに綴じて保管	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事G	地域連携情報をファイルに綴じて保管	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営企画G 薬局	診療情報をファイルに綴じて保管 調剤情報をファイルに綴じて保管	
	項規 第一 第一 号に 掲げ る十 一 体第 一 項各 号の 及び 第九 条の 二十三 第一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部門	ファイルに綴じて保管
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部門	年度毎にファイルに綴じて保管
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部門	年度毎にファイルに綴じて保管
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医療安全管理部門	年度毎にファイルに綴じて保管	
専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況		医療安全管理部門		
専任の院内感染対策を行う者の配置状況		感染対策室		
医療に係る安全管理を行う部門の設置状況		医療安全管理部門		
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者総合相談室			

(様式第12)

		保管場所	管理方法
病院の管理及び諸記録の管理に関する	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室 ファイルに綴じて保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室 年度毎にファイルに綴じて保管
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室 年度毎にファイルに綴じて保管
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬局及び全部門
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬局 年度毎にファイルに綴じて保管
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬局 年度毎にファイルに綴じて保管
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬局 年度毎にファイルに綴じて保管
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	副院長室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	CE室 年度毎にファイルに綴じて保管
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	CE室 年度毎にファイルに綴じて保管
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	CE室 年度毎にファイルに綴じて保管

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 石川 治
閲覧担当者氏名	医療情報部主任部長 松永 隆、医事リーダー 牧野 智香
閲覧の求めに応じる場所	(窓口) 医事グループ (閲覧場所) 医療情報部

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 件
	歯科医師	延 件
	国	延 件
	地方公共団体	延 件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	94.8 %	算定期間	平成21年4月1日 ~ 平成22年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	6,984人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10,705人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	167人	
	D: 初診の患者の数	8,123人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> 指針の主な内容： 医療安全管理体制、医療安全研修に関する基本方針、インシデント報告、医療事故発生時の対応、医療従事者と患者の情報共有、患者からの相談への対応、医療安全マニュアルの作成更新、医療安全管理に関する指針の公開 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 15 回
<ul style="list-style-type: none"> 活動の主な内容： 医療事故調査委員会・医療事故対策本部・医療支援チームの設置、医療事故・インシデント等が発生した場合の情報収集及び患者等への対応、重大な医療事故発生時の速やかな救命治療活動及び発生原因の分析、再発防止策の立案、医療安全管理マニュアルの作成・見直し、医療安全に関する職員の教育・研修の企画・運営・評価、指導の徹底と事故発生時の監視、医薬品に係る安全管理、医療機器の保守点検安全使用、病院機構本部・警察署・保健所・近畿厚生局・日本医療機能評価機構への報告 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 7 回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容： 医療機器システム管理、院内コミュニケーションのスキル、PCAポンプ説明会、CVC研修会、DVD「生死を分けるコミュニケーション技術」「みんなで考えよう医療事故防止対策 薬剤取り違え」、医薬品安全管理、メディエーション、インシデント報告システム 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無) その他の改善のための方策の主な内容： インシデント報告システムの変更、外来系救急カート・レスキューバックの設置、心電図モニター・ナースコール・PHS連動システムの全病棟配置・設定内容統一院内掲示板の掲載内容更新・追加、赤外線センサーの導入 	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> 所属職員： 専任(1)名 兼任(9)名 非常勤(2)名 活動の主な内容： インシデント報告書の分析、再発防止策の策定及び部署での確認周知、医療安全管理委員会事務局、医療審議委員会事務局、担当医療安全管理者会議の運営、医療安全研修の企画実施、医療事故発生時の現場対応及び指導、医療安全にかかる連絡調整 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に対応される体制の確保状況	有 ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> 指針の主な内容： 院内感染防止に係る基本的な考え方、委員会等組織に関する基本的事項、職員研修に関する基本方針、院内感染報告制度、院内感染発生時の対応、指針の公開 	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> 活動の主な内容： 細菌分離状況および耐性菌発生状況の把握、サーベイランスデータ報告（手術部位感染、血管内留置血流感染、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、多剤耐性緑膿菌、ペニシリン耐性肺炎球菌、バンコマイシン耐性腸球菌、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌）の把握、重症感染症発生状況の把握、抗MRSA薬・カルバペネム系抗生剤使用状況の把握、アウトブレイク発生時の指揮指導および改善策の実施状況の調査と見直し 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 23 回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容： 標準予防策、適切な防護具の着脱の演習、手洗い演習、安全機能付き翼状針・留置針の取り扱いの演習、マニュアルの読み合わせ、新型インフルエンザ対策、新型インフルエンザワクチン接種について、季節性インフルエンザの予防について、MRSA対策、N95微粒子用マスクの装着演習、病院清掃、臨床におけるグラム染色の意義、壊死性筋膜炎の診断・治療について 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 病院における発生状況の報告等の整備 (有) ・ 無) その他の改善のための方策の主な内容： 感染症発症後の経過報告用紙の提出 	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： 緩和医療に関する医療安全セミナー、アバスチン使用時の有害事象対応	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有 ・ 無) ・ 業務の主な内容： 医薬品の採用・購入、調剤室・外来及び入院部門における医薬品の管理、患者への医薬品の使用、臨床検査・画像診断部門における医薬品の使用、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品安全管理責任者は、医療安全部門と連携し、すべてのインシデント報告を受けている。その中から医薬品安全使用に関わるインシデントについて、医薬品安全管理委員会や医療安全担当者会議などで改善策を検討し実施している。	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 除細動器を含むBLS(一次救命処置)、MRI検査の安全性、人工呼吸器、血液浄化装置など生命維持管理装置や基本的な医療機器である輸液、シリンジポンプ等の使用・点検方法 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の作成 (有 ・ 無) ・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置・補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置について実施した。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品医療機器総合機構から出される「医薬品医療機器等安全性情報」から情報を得ている。不具合のあった医療機器は厚生労働省に報告した。 	